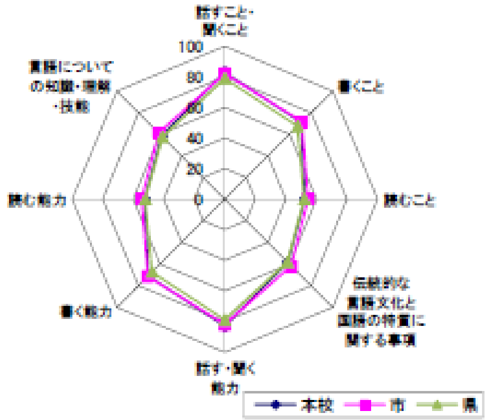
宇都宮市立富士見小学校第５学年【国語】分類・区分別正

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.0	82.0	78.9
	書くこと	70.9	71.5	67.4
	読むこと	52.6	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.4	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	83.0	82.0	78.9
	書く能力	70.9	71.5	67.4
	読む能力	52.6	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	58.6	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

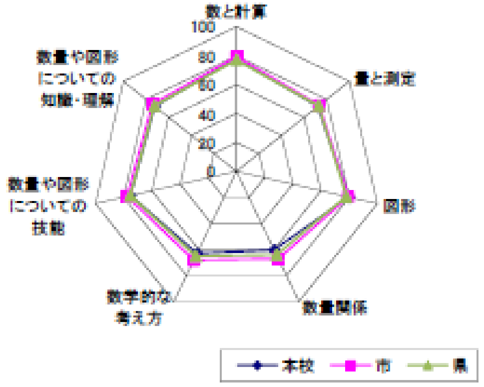
○良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本領域全体の正答率は83．0%で、県の正答率を4．9ポイント上回っていた。すべての設問で県の正答率を上回っていたが、特に、話の中心に気を付けて聞く設問の正答率は94．7%と高かった。	・学校生活の中で、話の内容が理解できるように、教師や友達の話をしっかり聞く態度を身に付けさせるようにする。また、友達の意見を聞くときには、自分の意見との相違点をはっきりさせ、それをふまえて自分の意見が発表できるように、話し合い活動を積極的に授業の中に取り入れていく。
書くこと	○本領域全体の正答率は70．9%で、県の正答率を3．2ポイント上回っていた。指定された長さで文章を書くことや自分の意見を支える理由を適切な表現を用いて書くことができ、県の正答率をおよそ7ポイント上回った。 ●二段落構成で書くことへの正答率は55．3%で、県の正答率を2．8ポイント下回った。	・文章を書く機会を多く設けるようにする。生活作文だけではなく、行事の感想や保護者へ知らせたいこと、お礼の手紙など、用途に合わせた文が書けるように指導する。また、文字数や書く内容を決めるなど、条件に合わせた文も書けるように指導していく。
読むこと	○本領域全体の正答率は52．6%で、県の正答率とほぼ同じである。説明文の段落相互の関係に注意して文章を読み取る設問の正答率が、県の正答率を3．5ポイント上回った。図と話し合いの内容を関連付けた理解力をはかる設問では、県の正答率を8．6ポイント上回った。 ●物語の内容を読み取る設問では、場面の様子を叙述を基にして読むことや叙述を基に人物の気持ちを想像して読むことにつまずきが見られ、県の正答率をおよそ8ポイント下回った。	・読書活動を推進していくとともに、自分の好きな一文を書いたり、感想を発表する機会などを設定したりすることで、質の高い読書ができるようにしていく。また、国語の物語文の読み取りでは、登場人物の心情の変化を考える手立てとなる心情曲線などを取り入れて、心情を読み取る力をつけるような指導を展開する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本領域全体の正答率は58．4%で、県の正答率とほぼ同じである。修飾語を理解しているかを問う設問では、県の正答率を5．9ポイント上回った。 ●漢字を書く設問では、4年生で習った漢字については県の正答率を上回っているものの、3年生で習った漢字については、県の正答率を下回っている。	・5年生の漢字の学習だけではなく、既習内容も含めた漢字練習を計画的に行わせるようにする。また、漢字を全教科の学習の中や、日記や連絡帳などの生活の中でも使えるように指導していく。

宇都宮市立富士見小学校第５学年【算数】分類・区分別正

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	79.3	77.1
	量と測定	72.1	73.4	72.9
	図形	80.1	79.4	78.0
	数量関係	60.3	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	63.1	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	75.4	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	72.3	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

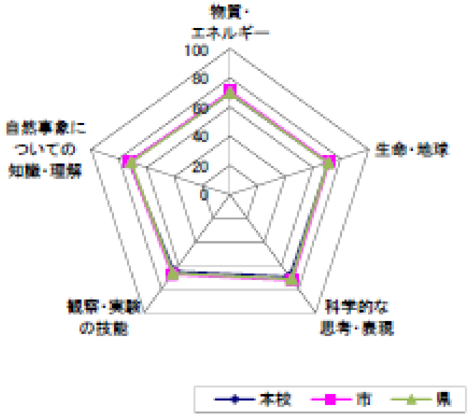
,〇良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	〇3位数÷2位数＝2位数（余りあり，商に空位あり）の計算は，県の正答率を5ポイント以上上回っている。また，倍とわり算の文章問題を表した図を選ぶ問題も，県を5ポイント以上上回った。 ●数直線上に示された分数を表す問題では，県を7ポイント近く下回っている。	・基礎的な計算を，今後も朝の学習や家庭学習で繰り返し練習し，正確にできるようにする。 ・分数については，等分の意味を再度確認し復習に取り組むようにする。
量と測定	〇身近にあるものの面積を推察する問題は，県の正答率を5ポイント以上上回っている。 ●面積の㎡と㎠の単位の関係については，県の正答率も低いが，さらに大きく下回った。	・身近にある正方形や長方形の面積を，実際に調べる活動を取り入れるなど工夫して取り組むとともに，プリントなどを活用して多くの練習問題に取り組むようにする。
図形	〇長方形の辺どうしの垂直な関係の問題は，正答率が83．0%で6ポイント県を上回っている。直方体の見取図から平行な面を選択する問題も，93．6%と正答率が高かった。	・他の領域より正答率が高かった領域ではあるが，さらに正確に判断できるよう，展開図や作図についても授業の中で復習する機会を設ける。
数量関係	●数量関係については，いくつかの問題で県の正答率とほとんど変わらなった。しかし，分配法則や棒グラフと折れ線グラフを比較し，変わり方の違いを記述式で説明することは，県全体で正答率が低かった。伴って変わる二つの数量の関係を式に表わす問題は，県を10%以上下回った。また，折れ線グラフの読み取りも，59．6%と県を7ポイント下回った。	・表やグラフの読み取りは，朝の学習や家庭学習で繰り返し練習するとともに，他教科の学習時にも積極的に表やグラフを活用して，正確に読み取れるようにする。 ・伴って変わる二つの数量の関係を，言葉や式，図などを用いて表現し，自分の言葉で相手に説明する学習活動を取り入れていくようにする。

宇都宮市立富士見小学校第５学年【理科】分類・区分別正

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.1	70.8	69.5
	生命・地球	70.9	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	69.5	72.8	71.7
	観察・実験の技能	65.2	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	72.7	72.3	71.4



★指導の工夫と改善　　○良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「物質・エネルギー」の領域を観点別に見ると，「自然事象についての知識・理解」の正答率が高く，7問中5問が県の正答率を上回った。「閉じ込めた空気を圧すときの，体積や圧し返す力がわかる」の問題では，県の正答率を9ポイント以上上回っている。また，「空気や水を温めたときの体積の変化がわかる」の問題も，県の正答率を11ポイント以上上回った。 ●「教室の上の方と下の方の温度の違いが，熱せられた空気の移動によることを説明できる」の問題では，県の正答率を12ポイント下回った。また，「水は沸騰すると，水蒸気という気体の水になることがわかる」の問題では，県の正答率を8ポイント下回った。そして，「2個の乾電池の直列つなぎができる」の問題では，県の正答率を14ポイント下回った。	・観察，実験を通して，科学的な言葉の定着を図るとともに，その言葉を使用して児童同士が互いに説明し合う学習活動を多く取り入れるようにする。 ・学年の系統性や単元間の関連性を意識して，科学的な言葉や概念を使用する機会を意図的に設定し，既習内容の定着を図っていく。 ・観察，実験器具の正しい操作方法を習得させるために，個別実験を増やしたり，グループでの実験の際も全員に操作機会を与えたりすることで技能の定着を図っていく。
生命・地球	○「月と星」に関する問題はすべて県の正答率を上回った。特に，「一ヶ月後の月の形がわかる」の問題では，県の正答率を6ポイント以上上回った。また，「星の明るさと色はさまざまであることがわかる」の問題も，県の正答率を6ポイント以上上回った。 ●「人の背中がまるく曲げられる理由を説明できる」の問題では，県の正答率も27．1ポイントと低く，本校においても24．5ポイントと正答率が低かった。また，「身の回りの生き物の冬のようすがわかる」の問題では，県の正答率を6ポイント下回った。	・実験結果から得た知識を児童同士が互いに説明し合う学習活動を取り入れるとともに，結果を文章だけでなく，図示することによって，様々な事象の仕組みや働きを定着させていく。 ・日々の生活の中から季節の変化や生き物の様子の変化に対する，児童のつぶやきや気づきを共有し合ったり，全員での観察の機会を設けるなど，自然事象に関する知識・理解の定着を図っていく。

宇都宮市立富士見小学校第５学年児童質問紙調査

★傾向　　　　〇良好なもの　●課題が見られるもの

〇家庭における学習の様子を見ると,「家で学校の宿題をしている」が96%を超えており, 多くの児童は宿題をする習慣が身に付いていることが分かる。
〇学ぶ意欲を見ると,「勉強していて, おもしろい, 楽しいと思うことがある」,「勉強していて,『ふしぎだな』『なぜだろう』と感じることがある」「できるだけ自分ひとりの力でものごとを解決しようとしている」の割合は, 85%以上と高くなっている。
〇学校での生活を見ると,「友だちと話し合うとき, 友だちの話や意見を最後まで聞くことができている」が90%を超えており, 多くの児童は, 話し手の内容をきちんと聞く姿勢が身に付いていることがうかがわれる。
〇「授業では, クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」を見ると, 91%と肯定的な回答の割合が高い。
〇家での生活における生活習慣を見ると,「毎日, 朝食を食べている」,「近所の人に会ったときは, あいさつをしている」,「学校の準備は自分でしている」が96%を超えており, 多くの児童は, これらの生活習慣がきちんと身に付いていることがわかる。
〇自分自身のことを見ると,「ものごとを最後までやりとげて, うれしかったことがある」,「人と話すことは楽しい」,「時間や約束を守ることは大切だ」が95%を超えており, 多くの児童は, これらの項目に対して肯定的に回答していることが分かる。
〇家族のことを見ると,「自分は家族の大切な一員だと思う」,「家でのきまりや約束を守っている」が92%を超えており多くの児童は, 家族の一員としての実感を有し, 家庭でのきまりや約束を守っていることがうかがわれる。
●「家で学校のじゅ業の予習をしている」は55%で, 予習は, 家庭における学習の取り組みの中では少ないことが分かる。自主学習の進め方を改めて指導し, 家庭学習の充実に努めたい。
●「むずかしい問題にであうと, やる気がでる」の割合は, 59%と肯定的な回答の割合が低くなっている。やさしい問題からむずかしい問題へと段階的に学習が進められるようにしていきたい。
●「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」の割合は, 61%と積極的に発表する姿勢は, 聞くことに比べて低くなっている。
朝の会のスピーチや授業中の話し合い活動等を通して, 人前で話す練習の機会を増やしていきたい。
●「毎朝, 自分で起きている」については, 74%と肯定的な回答の割合が低い。自分のことはなるべく自分でできるように, 機会あるごとに指導を重ねていく。